

人造り・国造り・心のふれあい

JICA10年の軌跡

国際協力事業団設立10周年記念フォトグラビア集

000
36
GAP



草苗を吹くバングラデシュと日本の少年（昭和59年度“国際協力フォトコンテスト”特選作品、撮影・河野真典）

国際協力事業団	
受入 月日 '85. 3. 29	000
登録No. 11344	26
	GAP

●表紙の写真

表：やしの実を背負って遊ぶガーナの少女（昭和58年度“国際協力フォトコンテスト”特選作品、撮影・喜多要）

裏：インドネシアの青い海にたたずむ島の一家（撮影・池田宏）

JICA設立十周年を迎えて.....三

JICA設立十周年によせて.....四

安倍晋太郎外務大臣／小此木彦三郎通商産業大臣／山村新治郎農林水産大臣／山崎平八郎自民党対外経済協力特別委員長／桜内義雄JICAを育てる会長／岩佐凱美国際協力事業団運営審議会会長代理

異文化を越えてひろがる国際協力
アジア.....六

中国・三江平原農業開発計画／日本シンガポール訓練センター／マレーシア・金属工業技術センター／タイ・モンクット王工科大学／カンボジア難民救済事業／インドネシア・ジャカルタ市街地再開発計画／インドネシア・アサハン水力発電開発計画／フィリピン・カガヤン農業開発計画／フィリピン・パンタパンガン地域森林造成計画／バンダラデシユ園芸研究計画／バンダラデシユ・農業普及計画／バンダラデシユ・食糧倉庫／ネパール・輸送力拡充計画／ネパール・西部地域公衆衛生対策／パキスタン・皮革加工技術／スリランカ・マハベリ川開発計画

中近東.....二二

エジプト・エルファアエームかんがい開発計画／エジプト・稲作機械化／シリア・家畜飼育指導の青年海外協力隊員／シリア・飼料作物指導の青年海外協力隊員／シリア・看護婦の青年海外協力隊員／モロッコ・測量指導の青年海外協力隊員／モロッコ・漁業訓練船

アフリカ.....二八

ケニア・ジョモ・ケニヤッタ農工大学／タンザニア・キリマンジャロ州中小工業開発・農業開発センター／エチオピア・土木技術指導の青年海外協力隊員／井戸掘り指導の青年海外協力隊員／マリ・地下水開発計画／セネガル・野菜栽培の青年海外協力隊員／セネガル・地下水道計画／ガーナ大学医学部

中南米.....三六

ブラジル・日伯農業開発協力事業／アルゼンチン・花卉栽培移住農家／パラグアイ・アルトパラナ移住地の養蚕農民／パラグアイ・書道指導の青年海外協力隊員／ペルー・水産加工センター／ペルー・鉱山保安技術育成／グアテマラ・オンコセルカ症研究対策／ボリビア・消化器疾患研究対策／ボリビア・亜鉛等有機鉱物回収

大洋州.....四三

フィジー・水産加工技術／西サモア・水産センター／キリバス・水産センター

日本で学ぶ研修員たち.....四四

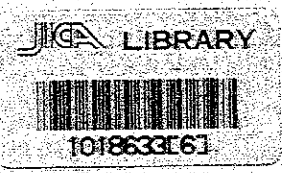
地下水資源開発コース／職業訓練指導員養成コース／沿岸漁業普及コース／野菜生産コース

私たちの世界——南と北.....四六

国際協力事業団事業の推移.....四七

研修員受け入れ人数／専門家派遣人数／調査団派遣人数／青年海外協力隊派遣人数／移住者送出数／無償資金協力事業の実績／分野別開発投融資業務の実績／プロジェクト方式技術協力案件数

年表・JICAの歩みと内外の出来事.....四八



JICA設立十周年を迎えて

国際協力事業団
総裁 有田 圭輔

八月一日に設立十周年を迎えた私ども国際協力事業団「JICA」は、開発途上国に対するわが国の政府開発援助（ODA）の主要な一翼を担って、政府ベースの技術協力や無償資金協力、青年海外協力隊の派遣、さらには移住事業等の実施業務を二元的に担当してまいりました。平和国家を標榜し、自由世界第二位の経済大国であるわが国は、地球社会の調和ある繁栄への貢献を目ざして一九八一年から五年間で七十年代後半のODA実績を倍増以上にする旨の新中期目標を世界に向けて公約しており、国の内外から、わが国のODAの質量の大幅な改善が期待されております。

中でも、技術協力は、途上国の国造りに不可欠の人造りを目指す、いわばODAの要にあたる援助であります。技術の移転は人を介して行われ、そこに異文化の壁を越えた人と人との交流も生まれ、心のふれあいを通じ国民レベルの相互理解が深まる所以ともなります。

資源に恵まれます、他の援助国と比べても特長に途上国との相互依存関係が緊密であるわが国は、援助大国として国際的に高い評価を受ける道を邁進することこそ、二十一世紀に向けてのわが国の生存の条件であると考えられます。私どもJICAはこの十年間進ってきた道を真剣に顧み、より良い将来に向けての新たな出発の礎といたしたい覚悟でございます。

ここに国際協力事業団設立十周年記念フォトグラフィア集を刊行いたしました。これを通じてJICAの事業に対する皆様の関心がさらに高まり、より一層の指導と協力を賜りますようお願いするものであります。

JICA設立十周年によせて



外務大臣

安倍 晋太郎

国際協力事業団（JICA）が設立十周年を迎えられ、益々発展の一途を辿っておられることは御同慶の至りでありま

す。
JICAは、わが国政府による技術協力の一元的実施機関として昭和四十九年に設立され、爾来開発途上国の「人造り・国造り」に貢献すべく種々の事業を行ってまいりましたが、この間に事業規模は飛躍的に拡大し、その活動は内外において高い評価を得ております。

わが国の技術協力に対する開発途上国の期待が益々高まりつつある折から、この度の設立十周年記念フォト集の発刊を通じ、国民各層よりJICA事業に対するより一層の御理解と御支援が得られることを期待しております。



通商産業大臣 小此木 彦三郎

現下の厳しい世界情勢の中で、発展途上国は、その経済力を高めるため人造り・国造り等真摯な自助努力を払っております。我が国を始めとする先進国は、経済・技術協力を通じ、かかる努力を積極的に支援していかなければなりません。このため、技術協力の中核的実施機関たる国際協力事業団に課せられた使命は極めて重大であると言えます。

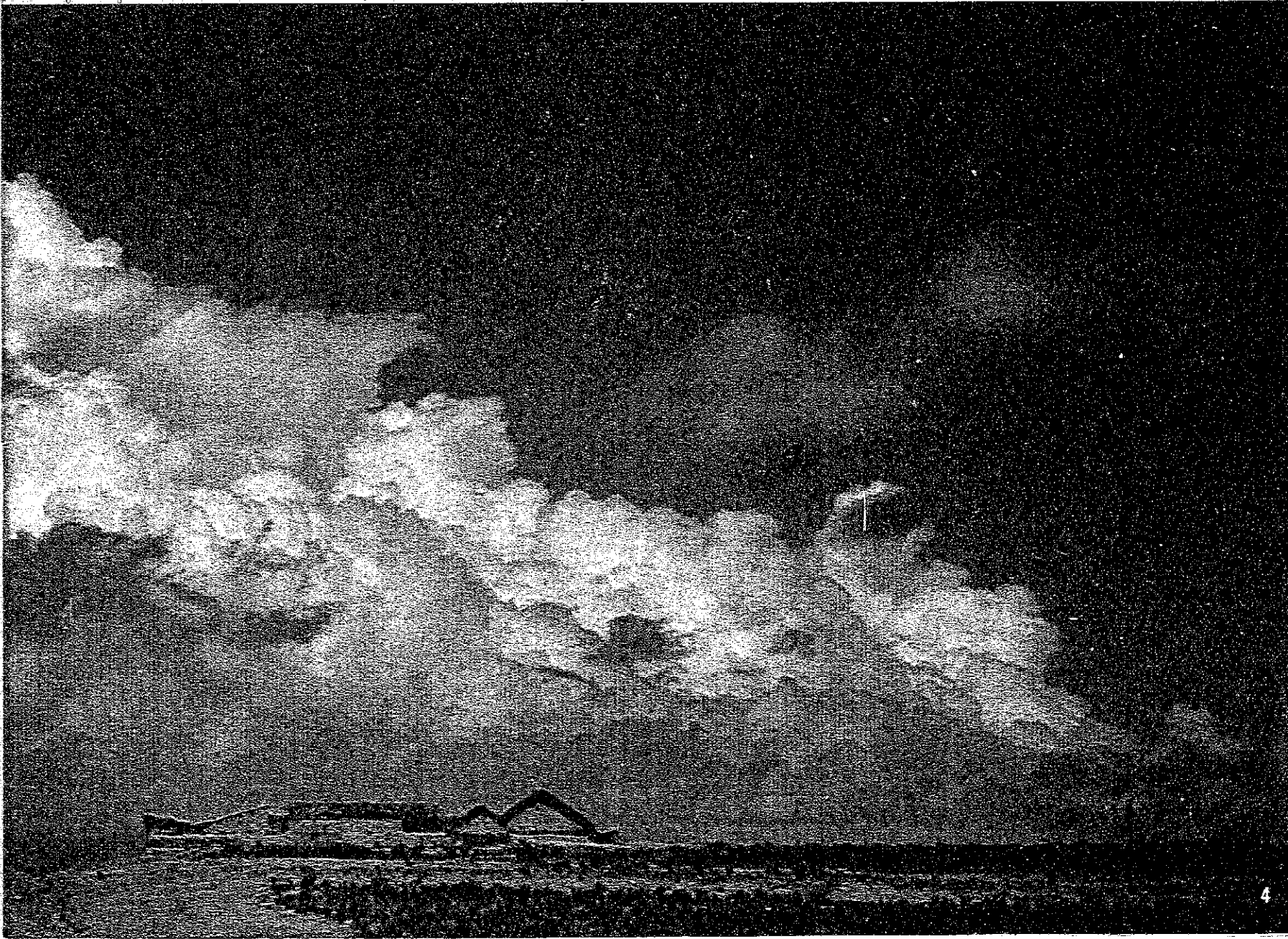
設立十周年を迎える貴事業団が、この期待に応えるべく、今日まで築き上げた発展途上国との絆を今後さらに強固なものとして、一層の飛躍を遂げられんことを期待しております。



農林水産大臣 山村 新治郎

国際協力事業団が設立された一九七四年は、食糧危機という状況のもとで世界食糧会議が開催された年でもありました。以来、十年を経て、世界の食糧事情は、先進国の過剰在庫とアフリカ諸国を中心とした開発途上国の食糧不足という状況に変化しています。

このような状況を打開するには、開発途上国が食糧自給力を高めることが必要であり、そのためには、農林業の担い手の育成に協力していくことが基本と考えます。国際協力事業団は、農業・農村開発協力の分野においても、これまで目覚ましい成果をあげてこられました。今後、より一層発展されんことを期待しております。





自民党対外経済
協力特別委員長
衆議院議員

山崎 平八郎

我が国は、世界の国民総生産の約一割を占める経済大国として、今日、国際的貢献を大きく求められております。そのまことに重要な時に、設立十周年を迎えられたことは、非常に意義深いものがあります。特に人、経済及び技術を通じての協力は、緊密な友好関係を発展させていく極めて重要な仕事であります。国家国民の存立の基本である防衛、食糧自給と並んで対外援助は総合安保の鼎の一脚であり、皆さまの益々の活躍を期待しております。



JICAを育てる会会長
衆議院議員

桜内 義雄

JICAがこの十年技術協力を中心として各方面に目覚ましい活動をされて来たが、その状況を逐一と写真にして報道されていることは評価されて良い。取材の範囲が広く、各国との協力の実情がよく把握されて居り、実感にあふれて居って感銘を与へる。JICAが充足して以来、その発展を願ってきた一人だが、これからも大いに活動を続けて貰いたい。そのことによって、日本が国際的に大きな責務を果たして居ることになると思ふ。



国際協力事業団
運営審議会会長代理

岩佐 凱実

現在の世界人口約四五億人の内、発展途上国の占める割合は七五％程度といわれているが、西暦二〇〇〇年にはこの割合は八〇％に達し、一方、その国民総生産は世界全体の三〇％程度を占めるに過ぎないと予測されている。このような状況と近年益々強まっている途上国と先進国との相互依存関係をみるに、今後途上国において農業開発、資源開発をはじめとして極めて広範囲な技術協力、国際協力の必要性は高まり、JICAの果たすべき役割は一層重大になるであろう。過去十年の経験を活かし途上国の人々に真に歓迎される国際協力の実をこれからも挙げ続けられることを深く期待する次第である。

